

平成30年度

市民事業評価会議
結果報告書

①市報発行事業

- (委員) 市民記者の取材内容は市が決めているのか。
- (市) アドバイスすることもあるが、基本的には市民記者が決めている。
- (委員) 年間発行回数が24回、月2回だが、デリバリーするだけで予算の半分かかっている。2回発行する必要があるのか。発行を月1回にして、発送費用を減らせば、紙面等に予算が増えないか。月2回にしなければいけない理由はあるのか。
- (市) 決まりはない。適時、的確に伝えるためである。また、他市の状況をみても月2回が多く、行政情報のタイムリーさというところをみると妥当だと思う。
- (委員) タイムリーさでいうとインターネットがあるので、例えば、毎日発行されている新聞であってもタイムリーではない。
- 紙は、タイムリーであるということよりも腰をすえてしっかり読むもの。明確に分けてはどうか。発送費用を抑えて、中身を充実させる方がよいのではないか。
- (委員) 広告収入はあるか。
- (市) 昨年までは月に1回広告を掲載していたが、今年度カラー化に伴い、月2回広告を掲載している。年間194万円の歳入を得ている。
- (委員) 他の媒体に、同じ情報が多く掲載されている。情報を1つにまとめて市報で掲載すると経費を削減できると思う。
- (市) 1つにまとめれば経費は削減できると思うが、それぞれの情報を特化し特色を出している。費用対効果も含め研究が必要である。
- (委員) 仕事の目的が、発行することではないのでは。市民にアンケートを実施し、成果を合わせて見ていくともう少し違った評価ができると思う。
- (市) 先ずはお届けして、今後の課題等として興味を持って読んでいただける紙面作りに取り組んでいきたい。市民意識調査では、回答した方の約8割が市政情報の入手先として市報を選んでいる。そうした意味では、市民の方の役に立っている。
- (委員) 市民意識調査では「市報が役立っている」とのことだが、誤差はどのくらいなのか。
- (市) 調査対象は2000人で700人ぐらいの回答がある。
- (委員) せっかく数字を持っているので、それを使わない手はない。見てもらわなければ始まらないのは事実であるが、効果があることが大事で、配ることが目的ではない。効果測定をすることがむしろ大事だと思う。効果があれば予算をつけても良いと思う。成果指標を検討してもらいたい。
- (委員) 市報は見やすく素晴らしい。紙面でイベント等のお知らせを出させてもらっているが、チラシよりも市報を見て来たという方々が多く、人が集まる。紙面がカラーになり職員の仕事が大変になったなど変化はあるか。
- (市) カラー化にあたり、自分たちで一部分を作っている。作業量としては増えているが、経費を増やさずに取り組んでいる。
- (委員) 業務水準の維持として広報課の考えはあるか。
- (市) 各担当が同じレベルやスキルで出来る基準を定めたい。
- (委員) 月ごとになると結構忙しいのか。

(市) 市報を作ると直ぐ次の市報の作成をするので、一年中作っているという感じである。

(委員) そういう労力を考えると2回を1回にするという検討材料にもなるのでは。

(委員) お知らせを出す側としては、効果を考えると2回あった方がよいのか。

(委員) 市報に間に合わないときは、「公民館だより」などを利用させてもらっている。特に2回なくてはとまらない。

(委員) すみ分けが出来ているので2回であっても良いと思う。例えば、今回は「児童館だより」であるとか、すみ分けが出来ているところがポイントだと思っている。

(委員) 2次評価会議の意見として「駅、郵便局への配布に費用がかかっている。これは何の経費なのか」とあるが。

(市) 駅や郵便局に市報を届ける経費については、シルバー人材センターに委託をしている「委託経費」である。

(委員) 「公民館だより」は、別の担当課になるのか。

(委員) 「公民館だより」は白黒で見栄えがしない。ここで一緒にカラーにすることはどうか。

(委員) 市報は良く見るが、公民館だよりはあまり見ない。市民からすると「東大和市」として見ており、公民館と分けて見ていない。初めて「公民館だより」があることを知った。市報と「公民館だより」をまとめてカラーにしたら見るのかなとも思う。経費削減とか働き方改革なども捉えるとよいのではないか。

(委員) 表が「市報」で、裏が「公民館だより」になるというのもよいと思う。

(委員) 民間企業でも製造部門、販売部門、輸送部門など他社と協調してやっている現状がある。すみ分けとすることが理由ならば、かつて意味があって分かれたものが、これから先を考えた時にどうして行くべきか、そういうことも含めて検討してみてもと思う。

(委員) 新聞で活字を見る方が慣れていますが、定期購読、新聞購読が減っていくと思う。配達部数に対して費用がかかるということは、コストが増えていくかもしれない。とすれば、そのための財源を補った方がよいのではないか。

(委員) 新聞の折込みと宅配について、宅配で配られているのが全体の15.4%、費用でいうと52.1%購読部数が減っていく方向性でいうと更に宅配の費用が増えていくと思うが。

(市) このままで行けばいずれ逆転することもあると思う。一方で、全てがIT化の方向に進んでいる訳ではなく、市報の信頼度は高いので、紙の部分が無くなるとは思っていない。

(委員) デジタル化した方がよいということではない。「こうみんかんだより」との統合や発行のタイミングを変えることで、経費が削減できるのではないかということ。紙媒体があってほしいという前提で経費を減らす検討をして欲しい。

②東大和市事業資金融資斡旋事業

(委員) 制度のPRはどのように行われているのか。

(市) 市のホームページと市報で行っている。

(委員) 金融機関に直接融資を受けるより、市の制度を利用するメリットとは。

(市) 利子補給は5割、不況対策の運転資金のみ7割、信用保証協会の保証料の5割を市が補助します。市の融資あっせん制度を利用することで、保証人を立てなくても保証協会の保証を得られ、補助も受けられるというメリットがある。

(委員) この制度を使った場合は、どこの金融機関でも金利は同じなのか。

(市) 「農協」と「ゆうちょ」を除き同じ金利である。

(委員) その理由は。

(市) 事業者により取引先が様々で、市が特定した金融機関と契約してしまうと、利用がしづらくなるということから、全ての金融機関と契約した。「農協」と「ゆうちょ」に関しては、市内の中小企業は、あまり利用していないという実績であったため除いている。

(委員) 預託金や利子補給で、中小企業の人達が継続できているというのが結果論。利子補給の支出があるのいいのか悪いのか分からないが。

(委員) 事業継続されていれば是とするがこの制度を振り返りシートで十分PRしてほしいと思う。

(委員) メガバンクの融資がないが。

(市) 信用金庫の外交の方が事業者を回って、様々な商品を紹介していく中で、メリットのある商品を営業している。また、事業者のメガバンクへの申込みが少ない。

(委員) 預託金はいらぬのでは。

(市) 過去を見ればメガバンクを利用している事業者も0件ではない。

(委員) これから景気が安定してくると、融資を積極的に行う時代になっていくと思う。

(委員) 預託金2,400万円の20倍の4億8,000万円まで融資ができるが、3億5千万円ほど使われていない。2,400万円の運用が出来ていない。もっとPRして4億8,000万円まで貸し出して、市内の事業者が潤えばいいと思う。さらには創業者斡旋で人がもっと集まって、市が活性化。お金の使い方として、その方が効率よいのではないか。

(委員) よい制度だと思う。東大和市の産業ということを考えると、もっと利用者を増やして産業を活性化させた方がよいのでは。

東大和市駅前や玉川上水駅前の空き店舗であるとか、商店が少なくなるというのは難しい課題である。

(委員) 課題というところでは、利用している方が信用保証協会にその年の売上や預貯金など財政状況を出して、手間や難しいところなどハードルが高いところがあるならば、そこを市がサポートすることにより利用率が上がるのではないか。利用者目線に立って課題を吸い上げることもプラスになりよいと思う。

(委員) 金融機関との定期的な会議の中で、使い勝手というところでの議論はしているのか。

(市) かなり有利な条件で斡旋をしているので、審査が厳格な部分がある。そういう点ではこの制度のネックになるところである。

- (委員) 景気が回復して行くと、この制度をもっと活用していく人が増えると思う。
- (委員) 利用者が減っているのはどういうことか。
- (市) 理由の1つとして、2009年のリーマンショックの頃には、2,750件くらいの事業者数があったが、2014年には2,584件、150近い事業者数が減少している。
- (委員) 2018年度の実績と2019年度の実績は約半分に近いが。
- (市) 融資の内容により返済期間(5年以内・7年以内)が違う。例えば1回借り入れると不況対策運転資金以外は、重複して借り入れできない。返済が終わると、直ぐにこの融資を利用するので、多い年と少ない年と実際ばらつきがある。5年を4年に繰り上げ返済して再度、融資を受ける事業者も数多くある。その繰り返しの中で多い年と少ない年がある。
- (委員) 実績のばらつきがあるとしても、使う人は使うし知らない人は使わないので、PRの課題はあるのではないか。
- (委員) こんなに実績が変動するものなのかと思う。返済が5年、7年に関係なく、実績として1億1300万円の年もあれば、2億円の年もある。それが良いのか悪いのかどうやって見ればいいのか。借りる人がいないから良かったと見るのか、逆に利用者数が減っているから悪いとするのか。とすればその制度自体もう少し小さくするべきとなるかもしれない。この制度が無ければいいということではなく、この数字の判断の良し悪しがわからない。
- (委員) 内容分析が必要なのでは。この制度の今後の方向性を見極めるために、振返りがあったほうがいいのではないかと思う。
- (市) 市は斡旋することどまる事業なので、どの程度金融機関に相談に行っているか把握できていない。相談件数はもっと多いのかもしれない。
- (委員) 今期は何件を目標にするとか決めているのか。零細企業が何件、中小企業が何件、個人事業主が何件とか、終わればそれぞれが何件でどうだったのかなどを検証しないのか。
- (市) 計画はない。判断出来る数字を持ち合わせていない。
- (委員) 金融機関に投げかけるなど働きかけをすることは出来るのではないか
- (市) 市内でどのくらいの事業者がいるのかどうかも開業が少ないのか多いのか、把握できていない。
- (委員) 預託金を増やしたり減らしたりすることが望ましいが、それが出来ないとしても、傾向分析ができないのか。返済が5年と決まっているなら、長いスパンで傾向分析をする必要があるのではないか。
- (委員) ニーズがないならこの事業は行う必要がないし、ニーズがあるならもっと貸してほしいと銀行に言ってもいいのでは。
- (委員) この事業は半永久的に実施していくべき事務だと思われるので、分析を始めないと。
- (市) 分析が出来ればいいと思うが、担当職員は他の事務もしながら1名であり実務的な部分で言うと分析することは難しい。
- (委員) この事業はもっとアピールした方がいい。大事な制度なのでより活用された方がいい。

③小規模保育事業 ④認証保育所補助事業

- (委員) 保育所全体で通っている児童の割合はどのくらいなのか。以前は専業主婦が多い印象だったが今は保育園に通っている子どもが多く感じる。何人くらいいるのか。
- (市) 平成30年施設の定員ベースで、2310人。
- (委員) 保育所に入れたい人が多い中でどのくらい満足している人がいるのか。
- (市) 人口に対して49.2% 0歳25.62% 1才48.9 2歳51.98% 3歳56.62% 4歳児56.69% 5歳児53.85%
- (委員) 0歳児は手がかかって保育士の人数が足りないが、4、5歳になると待機児童がなくなるのか。1才まで待てば入れるのではないのか。
- (委員) 待機児童を持つ方で、フルタイムの人は何人くらいいるのか。
- (市) 24人の中で父母がフルタイムなのは若干名。育児休業を取得できない人が多い。
- (委員) 施設整備補助金の金額が大きくないか。整備後の定員が9人に対して金額が大きいのではないのか。どのような内容の設備改修か。
- (市) 桜が丘に設置した保育所に厨房設備を作った。ふたば保育園は3,000万円の改修費。
- (委員) 29年度の運営費2億5千万、どのように見たらいいのか。28と29年度の人数の違いは。
- (市) 192から446人になっている。管内の保育所2園増えた。
- (委員) 一人当たりに係る事業費が整備費などを除いても29年度は経費がかかっている気がする。
- (市) 29年度は0歳児が増えたため。0歳児は費用がかかる。人も必要で面積も必要である。
- (委員) 認証保育の場合は一人当たり5万円くらいなのか。
- (市) 利用料の上限が決まっている。8万円。
- (委員) 市民サービスとして約40万円かかっているがそういう方針として理解していいのか。
- (市) そのとおり。どこまで引き上げるのか。5年後はどうなるのか。どこまでの必要があるのかは人口推計等をみて判断していく。
- (委員) 保育の無償化が始まっていくとどうなるのか。
- (市) 国や都からの情報がない。
- (委員) 保育サービスは色々な事情を抱えた人が利用するので、どこまでの必要性があるのか見極めないとならない。保護者の利便性を求めすぎると、子どもはどうなってしまうのか。
- (委員) 446人を受け入れて施設も増えたが、待機児童は増えてしまった。増えたのはなぜか。どのようにしてニーズをキャッチしているのか。本当に入園したい人をどのように把握しているのか。
- (市) 申込者が増えたのだが、保育の無償化の期待の中から新しい掘り起こしもあったのではないのか。ニーズをとらえていくのは現実的には難しい。待機児童のうち、0歳児はそれほど多くなかった。
- (委員) 東大和市だけの傾向なのか。母子手帳をもらってから出産までの期間が短いので、予測は難しいとは思いますが。
- (委員) 新しい園が増えて倍も受け入れたのに待機児童が増えたのは、入園させたいと考える潜在的な人なのか。
- (市) 保育園が先か、仕事が先かということになる。
- (委員) 待機児童の考え方は。

- (市) 申込者のうち、入園できない方は102名。申込を1園しか書かない場合はカウントしない。いずれかの園に入れたのに入らなかった場合、待機児童にはカウントしない。市によってカウントの仕方が違う。
- (委員) 認可外保育施設に対する指導監督はやっているのか。保育の状態は、行ってみれば気がつくような状態だと思うので、立ち入る機会はあるのか。
- (市) メールが発達したので、使送する事も減ったのが現状である。
- (委員) 保育園のことは見えにくい。議論がしづらい。
- (委員) 意外と保育園の数が多いと感じた。
- (委員) 幼稚園の定員が空いているという話があるが、無償化が進めば幼稚園が増えるのでは。
- (市) そう思われる。
- (委員) 教育環境は幼稚園の方が良いとは思うが。
- (委員) 国の政策が見えない事で、市が振り回されるということになると、民間であれば投資を控えようかということになるが、「日本一子育てしやすいまち」をどのくらいまで目指すのか。
- (市) 命題を掲げてきた中で施設整備と待機児童0人を目指して実施してきた。29年度で施設整備は一応終了した。小規模保育の3歳以上を受け入れられないと飽和状態。今後は保育士不足、保育の無償化、どのように進めていくかななどを詰めていかななくてはならない。
- (委員) 施設を作るのは29年度で終わって今は保育士の確保が課題とのことだが、有資格者を緩和することで対応できるのではないか。
- (市) 認可保育園の有資格者は100%で通していきたい、保育の質の確保も問われている。質の低下が懸念されるので、市が選考している保育所での緩和は考えていない。
- (委員) 有資格者100%を80%にして、建設的にフラットに出来ないか
- (市) 0歳から2歳は意思の疎通もままならない子どもなので、うつぶせ寝での死亡事故等がある中で、責任を持って適正に保育士が配置されているということを保険したい。
- (委員) 臨時職員にも有資格者を求めているか。
- (市) 基準内は保育資格を求めている。基準以上のところは求めている。
- (委員) どこまで行っても潜在ニーズがある。この整備はどこまでしていけばいいのか。手の打ち用がないのが分かる。
- (委員) 子どもがいなくても小規模保育の費用で計算すると市民一人当たり600円の負担をしていることになる。
- (委員) 色々な考え方を持っている人にも光を当てなければならない。ニーズの変化に対応しないとけない。
- (委員) 保育課の職員は何人体制か。
- (市) 11名である。
- (委員) 色々なことをやっていることがわかった。もっと胸を張っていいと思う。
- (委員) 保育園にも様々な種類があり、待機児童にも様々な定義があるとわかった。
- (委員) 真の問題は、子育てとはどうあるべきかということである。

⑤学校給食センター運営事業

(委員) 人気のあるメニュー、人気のないメニューは？

(市) カレーが人気。市販のルーを使わないで作っている。ご飯が足りないくらい。その他、磯揚げ、サラダにのりがかかったもの、揚げ物が人気。焼き魚やししゃもは不人気。

(委員) 食育はいい勉強。平成29年度の食育の回数が減っているが。

(市) 新施設稼動に伴い繁忙であったため、対応が厳しくなり少なくなってしまった。今年度は回数増に向けて努力していきたい。

(委員) 何か工夫しているか。

(市) 学校も栄養士が学校に行ってどんな事業をするかわからないということもあるので、今年度は例事を示して各学校にお知らせした。

(委員) 運営委員会はPTAと先生なのだが、報酬はいつから出るようになったのか。

(市) 金額は9千円で発足当時から出ている。15校の学校長とPTA会長だが、学校長や委員の中に市の職員がいる場合には報酬は出していない。

(委員) 給食費は純粋に食費(材料費)だけか。

(市) 給食費はすべて食材料費のみ。平成29年度は光熱水費を加えると1食あたり512.92円

(委員) 事業費は減らしていけるのか。

(市) 契約の見直しにより今年度は下がっている。

(委員) 約3億4千万円の内訳は。

(市) 主に調理委託の費用、光熱水費、消耗品費。

(委員) 人件費の中で、再任用以外は市の職員か。

(市) 市の職員である。給食費の計算や給食費未納者への電話催告、訪問、食材費の支払いなどを行っている。

(委員) 栄養士は。

(市) 栄養士は4人。その内3人は東京都からの配置。一人嘱託員(栄養士)を市で雇用している。

(委員) 単純作業だけパートを雇用することはできないか。

(市) 単純作業はパートを4人雇用している。給食費のシステムが入っていない為データをエクセルで管理している。

(委員) 3人も職員がいなくてはならないのか。

(市) 職員は給食費の管理と未納者の対応をしている。電話や夜間訪問など。

(委員) 支払わない人はどうなるのか。

(市) 時効は2年。全部ではないが時効となる人もいる。

(委員) 成果指標に残菜率とあるが、どう出すのか

(市) 提供した量に対して戻って来たもの。ざるにあけて水分を除いたグラム数を計測している。

(委員) 多摩地区の平均残菜率は変わらないのか。

(市) 変わらないが、当市は器具や調理方法が変わったことで残菜率が変わったのかもしれない。

(委員) 折角中学生と小学生を分けているのに目標値が一つなのか。

(市) 目標値は多摩地区の平均としており、計測していない自治体もあるため小学生と中学生が一まとめとなっている。

- (委員) 小学生と中学生を分けて目標値を出した方がよいのではないか。独自の指標を設定した方がよい。
- (委員) 給食がおいしくなった。取組みとしてわかりやすい。もっと数字目標を掲げて高い目標を設定して取り組んだ方がよい。
- (委員) 硬いものや魚類は残すなどあるが、食育の成果で残菜率が下がっているのか。
- (市) 食育の中で材料の皮むきなどを児童と行い、それを翌日の給食に出すことで、嫌いなものを食べられるという事例もあった。
- (委員) 学校給食は、栄養バランスや食育など色々な工夫や努力などをして提供されている。
- (委員) 旧センターの跡地はどうなるのか。
- (市) 他の部署で検討している。
- (委員) 学校給食を提供するのに意外と経費がかかっている。給食費は、取扱を明確にして公費として徴収を確実にすべきと思う。

⑥（仮称）東大和郷土美術園の公開

（委員）何が評価され、登録有形文化財になったのか。

（市）建物だけではなく、この建物で半世紀近く吉岡画伯が創作活動をしたことなど。

（委員）公開のタイミングが合わず、知っているが行ったことがない。もっとイベントが増えるといいと思う。

（委員）博物館、プラネタリウムと同じ管轄なのか。

（市）そのとおり。普段職員は吉岡邸にはいない。機械警備により、何かあれば職員が行く。

（委員）専門職はいるのか。

（市）郷土博物館には、6人の学芸員資格をもった職員がいる。

（委員）セキュリティは大丈夫か。

（市）近所の方に協力いただいているので助かっている。事故、事件はない。

（委員）散歩で入ることも出来ないのか。

（市）中に入ることはできない。

（委員）（仮称）となっているのはなぜか。

（市）本格的な整備が出来ていない。市立になっていない。

計画案、建物の調査も十分に出来ていないこともあり（仮称）となっている。

（委員）振返りシートに記載のある「駐車スペースの陳情」とは何か。

（市）専用駐車場がなく、市内、市外の方に来てほしいので駐車スペースの整備工事費を予算計上したが、駐車スペースを作ることによって景観が悪くなる、木の伐採等をしなくてはならないので、そうしないでほしいという陳情があった。文化財ボランティアや近隣住民からも意見をいただいている。

（委員）整備して公開していくのか。

（市）耐震、消防など色々な問題がある。将来的には常時公開できるような目標を持っているが、早急に整備するのは難しいと思っている。

（委員）今の保存状態はどうなのか。

（市）平成28年度に国の補助金を活用し、雨漏りなどの修理をしたが、白アリ調査、耐震、消防、建築基準の課題がある。

（委員）国からの援助はないのか。

（市）登録の証はもらえたが、補助があるわけではない。相談には乗ってもらえる。

平成28年度にトイレ、床の整備を行ったが、特に補助はない。

（委員）登録有形文化財になったのだから、人を呼んで広くPRするべきではないか。

（市）広報は市のホームページなどで行っている。SNSなどは活用出来ていない。

（委員）美術大学の学生や若者をまきこんで、お金をかけずに上手に広めてほしい。

（市）武蔵野美術大学の先生と学生が来て、資料を調べたりしている。新たな作品も見つかった。

（委員）文化財ボランティアに行くことをすすめられるが、吉岡氏の魅力は。

（市）以前は作品に対する色々な評価があったようだが、伝統的な日本画だけでなく、本の表紙、法隆寺金堂壁画、新橋駅のステンドグラスなど、残した仕事は数多くある。

- (委員) 観光資源となりえると思う。新橋駅に作品があることなどが広まれば認知度も上がると思う。
- (委員) 文化財ボランティアはどんなことをしているか。
- (市) 15人が定期的に集まり、皆が同じ説明が出来るように意見調整をし、説明のガイドを作っている。ガイドは好評である。
- (委員) ボランティア、学生、市のホームページのトップページを通じてPRしたらどうか。多摩湖か変電所でなくて吉岡邸がいいのではないか。本人の価値、建物の価値をもっときちんと公表してほしい。あわせてSNSで情報を流したらよいと思う。
- (市) ボランティアと職員で案を出し合っってパンフレットを工夫するなど、PR効果を高めるように努めている。
- (委員) 貰った資料もいい。これだけいいコンテンツがあるのだからもっとPRできると思う。
- (委員) 絵画などには使用权があるのか。
- (市) 著作権はご遺族が持っている。
- (委員) ツイッターなどで拡散するなど色々な人に興味をもってもらえるような仕掛け、美術大学の学生に協力してもらうなどしないともったいない。
- (市) タイミング良く来た方は写真をたくさん撮っていくなど、好評である。
普段は開いていないので市民の方も知らない人が多い。平成29年度に看板を設置し、多言語表示の案内も設置した。
- (委員) 開いてないことは逆に価値がある。
- (市) もう少し開園日を多くして変電所と同じ回数で進めたいと思っているが現状では難しい。
- (委員) ファンが増えれば整備が出来るのではないか。先に整備ありきでなくてもよいと思う。
- (委員) 美術はわからないけど魅かれた。外国の方も魅かれるのでは。素晴らしい。眠っているのがもったいない。
- (市) 当時の面影を感じてもらえるような展示の工夫、市民会館のアウトリーチ事業で琴の演奏会も実施した。お茶会、バイオリンとチェロのアンサンブルの公演など工夫をしている。スイーツウォーキングのコースにしたこともあり人気が上がっている。
- (委員) 動画を見たことがあるが。
- (市) 市報で特別公開をしたときのARが見られる。ユーチューブでも見られる。
- (委員) 演奏会などのイベントと合わせることはよいと思う。
- (委員) (仮称) 東大和郷土美術園は東大和市のお宝になるかもしれない。

評 価 結 果 一 覧

事業名	事業の方向性						予算の方向性		
	拡大	現状維持	やり方の改善	縮小	休止又は廃止	受益者負担の見直し	増加	維持	削減
市報発行事業		2	4	1				6	1
東大和事業資金 融資斡旋事業		1	6					7	
小規模保育事業		5	1					6	
認証保育所 補助事業		5	1					6	
学校給食センター 運営事業		3	3					6	
(仮称) 東大和郷土 美術園の公開	3		3				3	2	

※ 評価結果欄の数字は方向性を示した委員の人数（合計数=出席人数です。）ですが、（仮称）東大和郷土美術園の公開の事業の方向性のみ複数回答がありました。

委員の感想

- 添付資料が多かったので、事前に参考になってよかった。
- 2次評価会議で出された疑問について、回答もあればよかった。
- 様々な事業があることを知ることができた。
- もっと市民に情報が広がるといいと思う。
- 振り返りシートはもう少しわかりやすく記載してほしい。
- 職員も様々な努力をしていることが良くわかった。
- もっとアピールできるフィールドを設け、真の成果は何かを語る集団になれば縁の下の存在でないと感じるし、強い集団にもなりえると思う。
- コーディネーターがとても上手だった。
- 多くの事業が自分や家族と関わりのあるものだったため、理解しやすかった。
- 限られた予算の中で職員が試行錯誤、尽力している様子がわかる事業が大半だった。
- 周りの委員の問題提起の仕方が勉強になった。
- 事業を評価しながら応援したい、協力したい気持ちになった。
- 二次評価会議の意見はどの事業も的を射ていて、市民として共感できる内容なので、実際に各課で課題管理とし、今後の事業に反映したらどうか。
- 毎回コーディネーターが丁寧な進行で大変感謝している。

市民事業評価会議委員

飯名 剛委員、 石田 有史郎委員、 奥田 真由委員、 砂田 裕一委員、
 寶田 和由委員、中嶋 洋介委員、 町田 美香委員、 山崎 喜美子委員（五十音順）

任 期：平成29年5月17日～平成32年3月31日まで

コーディネーター：大崎 映二氏

平成30年度 市民事業評価会議日程表

日時・対象事業

日 時		会 場	対象事業名	担 当 課
7月19日(木)	午後7時～7時50分	会議棟 第1・第2 会議室	市報発行事業	秘書広報課
	午後8時～8時50分		東大和市事業資金融資 幹旋事業	産業振興課
7月20日(金)	午後7時～7時50分	会議棟 第1・第2 会議室	小規模保育事業	保 育 課
	午後8時～8時50分		認証保育所補助事業	保 育 課
7月24日(火)	午後7時～7時50分	会議棟 第1・第2 会議室	学校給食センター 運営事業	給 食 課
	午後8時～8時50分		(仮称)東大和郷土美術園 の公開	社会教育課

平成30年度 市民事業評価会議結果報告書

平成30年10月発行

編集・発行 東大和市 企画財政部 行政管理課

東大和市中心3丁目930番地

電話 042(563)2111内線1441

東京
ゆったり日和



東やまと